

平成19年4月27日

各 位

会社名 松尾電機株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 清水 巧
コード番号 6969 大証市場第2部
問合せ先 執行役員・総務経理部門長 竹野井 薫
TEL (06)6332-0871

平成19年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、平成19年2月2日に公表した、平成19年3月期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の業績を下記のとおり修正致します。

記

A. 通期業績予想の修正

1. 連結業績予想の修正

(単位：百万円, %)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------------|-------|-------|-------|--------|
| 前回発表予想 (A) | 8,130 | △ 160 | △ 160 | 160 |
| 今回修正予想 (B) | 8,110 | △ 216 | △ 231 | 115 |
| 増減額 (B-A) | △ 20 | △ 56 | △ 71 | △ 45 |
| 増減率 (%) | △ 0.2 | — | — | △ 28.1 |
| 前年同期実績 (平成18年3月期) | 8,177 | 73 | 67 | 59 |

2. 単独業績予想の修正

(単位：百万円, %)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------------|-------|-------|-------|--------|
| 前回発表予想 (A) | 8,060 | △ 120 | △ 120 | 100 |
| 今回修正予想 (B) | 8,049 | △ 197 | △ 206 | 41 |
| 増減額 (B-A) | △ 11 | △ 77 | △ 86 | △ 59 |
| 増減率 (%) | △ 0.1 | — | — | △ 59.0 |
| 前年同期実績 (平成18年3月期) | 8,099 | 90 | 89 | 85 |

B. 修正理由

【連結】

当社グループは tantalum コンデンサ、回路保護部品の製造・販売を事業としており、当期に於いて連結総売上に占める割合は前者が約83%、後者が約11%です。

当期に於いて、主力の tantalum コンデンサは、車載向、産業用機器向品を中心に堅調に推移し、ビデオカメラ、デジタルカメラ等、民生用電子機器の小型化・薄型化に適合した超小型 tantalum コンデンサの売上も増加して、前年同期比4.1%増加する見込みです。特に、下面電極構造チップ tantalum コンデンサは当下半年より売上が増加（当上半期比51.9%増加）し、tantalum コンデンサの売上増加に寄与しました。

しかしながら、回路保護部品は、海外向け売上高は増加したものの、国内の民生用機器分野において厳しい販売競争による価格下落や、代替部品へのシフトのため著しく売上高が減少し、売上高は前年同期比23.3%減少する見込です。

なお、海外売上（当期連結総売上の約23%）については、携帯電話向け tantalum コンデンサを中心に販売に努めた結果、前年同期比14.3%増加する見込みです。

以上、当期連結売上高は、tantalum コンデンサについては増加したものの、回路保護部品の売上の減少が著しく、前年同期に比して66百万円減少して、8,110百万円（前年同期比0.8%減少）となる見込みです。

費用面につきましては、当期より出荷数が増加している超小型下面電極チップ tantalum コンデンサの歩留まりの改善が計画値に達せず製造費用が増加し、またユーザーの多様な要求仕様に応えるため、同コンデンサのラインナップの拡張に努め、これに係る費用も増加しました。

営業損失、経常損失につきましては、上記費用増加及び販売価格の下落に加え、tantalum コンデンサより収益性に優る回路保護部品の売上減少の影響が大きく、誠に遺憾ながら損失が拡大する見込です。

なお、当期純利益につきましても、営業損失の拡大により前回発表値を下回るものと見込んでいます。

【単体】

上記【連結】に記載した理由と同様の理由により、前回発表値を修正いたします。

(注) 上記業績予想につきましては、現時点で入手利用可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、様々な不確定要因が内在しています。今後当社グループを取り巻く市場の経済情勢等により実際の業績は、上記記載の業績予想数値と異なる可能性があります。

以 上